

「オープンデータ利活用セミナー」開催報告

開催概要

- ◆ 開催日時 :令和3年9月9日(木) 13:30～15:00
- ◆ 開催方法 :Zoom ウェビナー

- ◆ 中国情報通信懇談会は、中国総合通信局および(一社)中国経済連合会との共催により、「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」(令和元年6月に設置)の令和3年度第一回の会合として「オープンデータ利活用セミナー」を開催し、地方公共団体や情報通信懇談会会員の民間企業等から59名の参加者がありました。
- ◆ 相原運営委員長 開会挨拶 : 令和元年度の総括として、「データの再利用に配慮したフォーマットを明確にすること」、「再利用の可否を各々のデータに示すこと」を確認し、昨年度は「業務のデジタル化を図った上で、手間を掛けずにオープンデータが自動生成されることが重要なポイントであること」を確認しました。今後は行政のDXが進められる中で、無理なく普及していくことを期待しつつ、中国地域のオープンデータ化の加速にご協力願います。
- ◆ セミナー1では、(一社)データクレイドル 大島理事より、「地方公共団体のオープンデータ取組事例紹介」と題して、最新事例の取組として府中市の防災オープンデータの取組を紹介。公共機関が持つデータだけを公開することがオープンデータと勘違いされがちだが、民間の持つデータと併せて価値を高めることが重要。また、これからのオープンデータは「取りあえず公開」から「サービスを想定した公開」へ取り組みをシフトし、広域連携にも取り組む必要があると訴えられています。
- ◆ セミナー2では、広島県土木建設局 岡崎主査より、「広島デジフラ構想に基づくデータ利活用の取組～インフラマネジメント基盤「DoboX」の構築等について～」と題して広島県が進めるドボックス(DoboX)の紹介を行い、道路の規制情報や河川の観測情報など、部署毎に管理しているデータの統合や、将来的には国や市町村のデータと連携するシステムを構築する将来構想を紹介されました。

「オープンデータ利活用セミナー」開催報告

開催概要

- ◆ 講師への質問では、「自治体がオープンデータを進めるに当たっての目に見えるメリットを知りたい」、「DOBOXについて、縦割りのデータを組織横断的に活用する工夫を知りたい。」などの切実な質問が出ていましたが、組織を超えた若手職員を中心としたワークショップの開催などの工夫や、自治体担当者のスキルが向上しているため、公開したデータを自ら活用している事例もあるようです。
- ◆ 中国経済連合会 清地常務理事 閉会挨拶：本ラウンドテーブルは今年で3年目となり、発足当初は手探り状態でしたが、本日2コマの講演を聴講して、中国地域における取り組みが進んでいると実感しました。今後はデジタル庁発足により、上からの強引な動きもあると思いますが、各県や市町の独自性も出しながら取り組みを継続して行きたいと思っております。次回の会合では取り組み事例の紹介も行いますが、自治体の悩みなどの意見交換などに重きを置いて実施したいと思っております。

